



子ども・子育て会議だより



智頭町教育委員会事務局 平成31年2月

平成27年4月にスタートした「子ども・子育て支援新制度」に基づいて策定された“智頭町子ども・子育て支援計画”に掲げる各種事業について検討審議するため、平成30年度子ども・子育て会議を開催しました。

智頭町では、子ども・子育て支援法に基づき、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進していくため、平成27年3月に策定した「智頭町子ども・子育て支援事業計画」に関連する事業について、年度ごとに進捗状況の報告及び点検を行うこととしています。

○ 新子ども・子育て委員紹介

15人の委員と3人の教育委員会事務局で構成します。

子どもの保護者代表	・小坂 宗司 ・葉狩 裕 ・西村 早栄子 ・葉狩 佐知子	ちづ保育園 PTA 会長 智頭小学校 PTA 会長 森のようちえん代表 ほほえみママサークル代表
子どもの支援に関し 学識経験のある者	・小宮山 富美子 ・草刈 満男	主任児童委員 智頭町公民館連絡協議会長
子どもの教育、保育 又は養育に関する事 業に従事する者	・岡村 篤朋 ・米井 ますみ ・石井 弥生 ・山崎 理恵 ・藤原 加奈 ・松村 典子	教育委員会指導主事 ちづ保育園 園長 子育て支援センター所長補佐 養育支援家庭訪問員 福祉課保健師 智頭町スクールソーシャルワーカー
事業主を代表する者	・林 良久	智頭町経営者協議会代表
事務局	・國岡 厚志 ・國岡 秀憲 ・山本 理沙	教育課長 主幹 主事

○ 会長(小宮山富美子)あいさつ(要約)

近年、核家族化や地社会の連帯意識の希薄化など、子育て家庭をとりまく環境の変化によって、子育ての負担や不安、孤立感を感じる家庭もある。就労形態も多様化するなかで、保護者のニーズに柔軟に対応できる支援体制を充実するとともに、子どもの育ちと子育てを、地域社会をはじめ社会全体で支援していくことが必要となっている。

今後の子育て支援事業がさらに充実するよう、会議の中で議論していただきたい。

【協議内容】

1) 智頭町の子ども(家庭)を取り巻く社会環境の変化について報告(統計データ)

○ 会議内容

(1) 智頭町の子ども・家庭を取り巻く社会環境の変化について統計データをもとに報告

【人口の推移】年々約150人ずつ人口が減少し、7千人を割ってしまっている。近年は移住定住が増加傾向にあり、5歳以下の子どもの人数は10年前よりも増加している。移住定住施策とともにさらなる保育サービスの充実が求められる。

【出生率】1人の女性が一生の間に産む子どもの数(特殊合計出生率)は平成22年以降、県平均を下回る傾向が続いている。

【就労状況】全国的には30~39歳で出産・育児等の要因で落ち込んでいるが、智頭町は女性の就労率が高く、出産後の早い職場復帰がうかがえる。

【家族構成の推移】国勢調査データ(H22・H27)の比較では、3世代同居世帯が20%減少している。父親+子の世帯が40軒、母親+子の世帯が285軒といずれも増加傾向にある。とりわけ子育て世代におけるひとり親世帯(男親11件、女親62件)への子育て支援が必要。

【小学校・中学校の児童・生徒数】

今後の予測では2027年には小学校の全校児童数が200前後に減少することが予想される。

中学校は、現在の生徒数を維持している。

【子育て支援センター】出生率の低下や低年齢での保育園入所が増加する中で、支援センターの努力により、H29の年間利用者が過去最も多い4,053人となっている。支援センターの機能を最大限に活かし、乳幼児期の充実した支援と、保護者同士の豊かな人間関係を築くための拠点として重要な役割を担っている。

2) 「智頭町子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況を報告

① 子どもの健やかな育ちを保障する

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	就学前教育・保育の充実	智頭町保育園一園化の実現	○	H29.4月ちづ保育園が開園。0~5歳児まで連続した保育体制を実施
		教育・保育の質の向上	○	保育士の資質向上及び発達保障の充実
		森のようちえん事業の支援	○	継続実施
		認定こども園の普及	—	二一ズ把握
2	地域における子育て支援サービスの充実	地域子育て支援センター事業の推進	○	拡充に向けた検討
		ファミリーサポートセンター事業の推進	○	支援会員を増やし、支援内容の充実
		乳児家庭全戸訪問事業の推進	○	継続実施
		ブックスタート事業の推進	○	継続実施
3	要保護児童への対応などきめ細かな取組の推進	児童虐待防止対策の充実	○	連携強化
		ひとり親家庭への自立支援の推進	○	継続実施
		障害児施策の充実	○	継続実施
		養育支援訪問事業	○	継続実施
		子育て短期支援事業	○	継続実施、啓発強化。
4	子どもの人権の尊重	人権・同和保育の推進	○	継続実施

② 親と子の心身の健康を守るために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	親と子の健康の支援	妊産婦保健相談等	○	継続実施
		乳幼児健診	○	継続実施
		乳幼児保健相談	○	継続実施
		子育て講座	○	継続実施
		小児医療の充実	○	継続実施
		各種予防接種	○	継続実施
		虫歯予防フッ化物洗口事業	○	継続実施
2	「食育」の推進	離乳食講習会	○	継続実施
		食育推進事業	○	継続実施
		食物アレルギー対策の推進	○	継続実施
3	思春期保健対策の充実	心身の健全な意識の育成	○	継続実施
		学校生活適応支援員の設置	○	継続実施
		心の教室相談員の設置	○	継続実施
		スクールカウンセラーの配置	○	継続実施
		子どもを取り巻く有害環境対策の推進	○	継続実施

③ 子育て家庭を支援するために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	保育サービスの充実	乳児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		延長保育	○	ニーズ把握、継続実施
		一時預かり事業	○	ニーズ把握、継続実施
		障がい児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		土曜午後保育	○	ニーズ把握、継続実施
		病児・病後児保育	○	ニーズ把握、継続実施
		第3子以降保育料無料	H27年度 完全無償化	継続実施
第2子以降保育料軽減	H28年度 完全無償化	継続実施		
2	情報提供・相談体制の充実	子育ての情報提供・相談体制	○	継続実施

3	教育環境の整備	小中学校図書館 保育園図書室の充実	○	継続実施
		総合的学習の時間の推進・ボランティア体験活動・職場体験活動	○	継続実施
		国際交流事業	○	継続実施
		地域ボランティア	○	継続実施、地区公民館の機能強化
		特別支援教育総合推進事業	○	継続実施
		家庭教育支援チームの設置	○	継続実施
		4	家庭や地域の教育力の向上	すくすくすぎっ子の活用・啓発 ノーテレビデーの推進
5	子育てしやすい就労環境の整備	ワーク・ライフ・バランスの啓発	○	継続実施
		地域型保育事業の推進	○	継続実施

④ 地域ぐるみで子育てするために

	事業計画	推進施策	進捗状況	H31年度目標
1	児童の健全育成	放課後児童クラブの充実	○	施設整備、環境の充実
		児童館活動の充実	○	継続実施
		公民館事業の充実	○	継続実施
		スポーツ振興と環境整備	○	継続実施
2	安全・安心なまちづくりの推進	子ども110番	○	継続実施
		交通安全街頭指導	○	継続実施
		青少年育成事業	○	継続実施
		あいさつ運動	○	継続実施
3	環境・自然を大切にするまちづくり	木育推進事業	H27年度 新規	継続実施予定
		ウッドスタート事業	H27年度 新規	継続実施予定
		児童公園・親水公園の整備	○	継続実施
		親水公園連絡協議会の事業	○	継続実施
		環境美化への積極的参加の推進	○	継続実施

2) 新規事業について

事業名	新規/拡充	事業概要	活動実績
智頭町総合戦略事業「育みの郷」構想事業『いのちね』	H28 新規	妊娠、出産、子育て、思春期、更年期等、女性特有の不安・悩みなどの相談。	H28.5月、保健センター内に「いのちね」を開設。女性の悩みに寄り添う活動として主に産前産後の適切な対処方法や子育て不安への相談・対応のほか、いのちの授業、子ども手当講座、ヨガ教室を実施。
妊婦歯科健康診査	H28 新規	ホルモンバランスや唾液の変化、食生活の変化、つわり等が影響し、むし歯や歯周病にかかりやすくなる妊娠中にむし歯や歯周病の予防を行う。	12名に実施
新生児聴覚検査の費用助成	H28 新規	早期に適切な支援を行う必要がある聴覚の状態を確認するための検査を受けやすくするため、費用助成を行う。	30名に実施
「おせっかいのまちづくり」宣言	H27 新規	町民が肩を寄せ合い共に支え合いながら地域の人々が心も暮らしも豊かに智頭らしく生きていくまちづくりを目指す。押しつけにならないよう気をつけながら、少しのおせっかいを始めることで、「安全・安心な住みやすいまち」をつくることを目的とする。	12月1日『おせっかいの日』に街頭キャンペーンを実施 ※おせっかい標語『みつけよう みんなでできる おせっかい』
智頭町トップアスリート育成支援事業	H27 新規	智頭町の代表として県外のスポーツ大会に出場する子どもたちの活動を支援することで、町全体のスポーツ振興及び人材育成に寄与することを目的に交付。	バドミントン1人(中国・全国大会)・野球3人・バレーボール(JOC)1人、サッカー-中国地区リーグ1人・水球(中国・全国)2人・陸上1人、ソフトテニス(中国大会)2人・水泳(JOC)1人。今後も事業を継続し、さらなるスポーツ振興と人材育成に努める。
智頭町学習支援事業	H28 新規	生活困窮状態にあるなど、生活課題があり支援を必要とする家庭に育つ小・中学生に対し学習支援を行う。	小学生7名、中学生4名に放課後の学習支援を実施。
第2子以降保育料軽減	H28 新規	第2子以降の保育料を無料化し、子育て世代の経済的負担の軽減を図る。	在園児198人中、対象者107人
智頭町森のようちえん保育料軽減事業	H28 新規	保護者と一緒に暮らす第2子以降の児童(智頭町在住)の保育料を軽減することで、子育て家庭の経済的負担を減らし、子どもを生み育てやすい環境を整備する。	在園児25人中、対象者14人
智頭町わが家で子育て応援給付金事業	H29 新規	1歳未満のお子さんを自宅で子育てされている家庭に給付する。乳幼児期の親子のふれあいや子どもとの密接な関係を築き、充実した子育てと、経済的負担の軽減を図る。(最大10ヶ月30,000円/月)	対象者62人中、受給者35人

(5) ワークショップ テーマ「子育てを楽しめる地域づくり」について

【設定】2グループに分かれ、①地域(企業)、②保護者(家庭)、③保育・教育施設、④行政それぞれの立場で「子育てに関する活動」を楽しむために必要なこと、活用できるひと・もの、実現するために必要な連携、方法について話合った。

【ポイント】

- 子どもが健やかに育ちやすい環境にするためには、どのような課題があり、私たちがそれにどのように関わっていけばよいのか。
- 子ども自身は、自分がこうしたいと思ってもなかなかできないその環境をつくるのが大人たちの役割である。
- 子育てを楽しむのは誰なのか。子どもが楽しい、親も楽しい、地域が楽しい、いろいろな世代が楽しめるまちでありたい
- 子育て真っ最中の人たち、子育てを経験した人たち、子育てが終わった人たち、それぞれの立場で関われる可能性を出し合っていきたい。

【ワークショップのまとめ】 別紙意見交換シート参照

【まとめ】

- 子どもたちは未来を創り上げていってくれる存在であり、可能性をたくさん持っているその可能性をしっかりと引き出せる環境をつくっていく使命がある。
- 今日皆さんから出されたアイデアや、子育てアンケートの意見、要望、ニーズ結果などを踏まえ、子育てしやすい環境づくりや、人と人との豊かな関係性を築くための参考にさせていただきたい。
- 子どもの成長をじっくりとみんなで見守り、喜びを感じられる、それによって私たちが生かされていくという認識をして、地域全体がいきいきとしたまちになってほしい。



『子育てを楽しめる地域づくり』ワークショップ(まとめ)

地域(企業)	保護者(家庭)	保育施設	行政
① 子育て(地域活動・保育)が楽しい!と思う瞬間			
<ul style="list-style-type: none"> ○幼い子どもたちが年を追うごとに体も精神もたくましくなるのを保護者や祖父母を思いながら見るのは楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの成長を共有できるとき ○保護者同士や地域のネットワークが広がる活動をしているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの成長が見えるとき ○保護者と一緒に成長を喜び合えるとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育、子育て、教育に関する事業やサービスが、多くの子育て世代(家庭)に利用され、暮らしの支えや助けになっていることが感じられたとき。
② 子育て(地域活動・保育)をもっと楽しむ(充実させる)ために必要なこと			
<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士のつながりを子どもたち同士のつながりに広げていくこと。 ○神社や寺院などの行事や祭りに子どもたちが行きたくなくなるような取り組みを考えたほうがよい。そこに集まるように仕向けければ、必然的に子どもたちの心に地域との関係がしみこんでいくのではないだろうか。 ○各地域で盛んに行われている公民館行事を維持・継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポジティブで気持ちに余裕やゆとりをもつこと ○地域で子育て協力ができる関係づくり ○家庭内でもっと子どもと向き合う時間を大切にする ○地域の人との交流の場づくり ○地元の人に森の魅力(森林セラピーロード)や活動を知ってもらう機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での思い出(家族と何かを成し遂げたなど) ○日頃からの地域とのつながり ○子育て支援センターで保護者同士を繋げ、育児の経験を分かち合いながら交流ができるような雰囲気づくり、場所づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で子どもたちを見守り、親の負担も軽くなり、子どもたちがのびのびと育ち、子育てに関わる人々が幸せになる仕組み。
③ 子育て(地域活動・保育)を楽しむ(充実させる)ために使えそうなもの・ひとは?			
<ul style="list-style-type: none"> ○智頭には博物館も映画館も美術館もショッピングセンターも無いが、豊富な自然(山・川・田・畑・畔道)がある。露のとうや、つくしが芽を出し、スイセンの香りを、季節の移り変わりを鋭く感じられる子どもたちに導けないか。 ○仙(やまひと)塾、山本福壽さんの協力を得て、智頭の魅力を感じられる機会を。 	<ul style="list-style-type: none"> ○じじ・ばば(助言をもらえるような関係づくり) ○家族で食事に気軽に行ける場所(ファミレスのような) ○役場職員との関わり ○智頭の自然をもっと活かす ○子ども食堂の拡大(営業日、時間をもっと増やしてほしい) 	<ul style="list-style-type: none"> ○未就園児にも、ちづ保育園の園庭を開放してほしい ○週末(日曜)でも保育園の園庭が使えたらありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○祖父母世代とふれあう仕組み(機会)づくり ○民生児童委員として地域の子育て応援団でありたい! ○かかりつけのおばあちゃん(おじいちゃん)のような『里親』ができれば、子どもの世話を任せ、任せられる人間関係が築け、相互に恩恵を感じられるようになれば楽しい。(老夫婦にとってのチャイルドセラピー、核家族やひとり親にとっての心の支え)
④ 実現させるために協力してできることは?			
(保護者として・地域貢献として・保育施設として…行政に求めること…など)			
<ul style="list-style-type: none"> ○遺伝子として親子、孫の関係は自然に繋がるが、道徳・常識、しみたりなどは努力しなければ繋がっていかない。だからこそ、おせっかいの行動は大切です。 ○那岐は地区の子どもを我が子のようにしつけ、可愛がっている。その地域力に学ぶことは大きい。 ○智頭町内の企業に育児・子育てへの理解を。父親の育児参加を勧める働きかけをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お年寄り世代と話せる、または子守をしてもらえる場所(核家族などのニーズに対応できる仕組み) ○子ども応援サポーター(おじいちゃん、おばあちゃんボランティア) 	<ul style="list-style-type: none"> ○保育士不足、人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の要望が多い公園の整備(子ども遊び場の整備、セラピーロードの活用など) ○使わなくなった育児用品や教育用品(備品)を、必要としている人に提供できるフリーマーケットのような仕組みと交流の機会 ○教育と福祉が連携して年配世代と子育て世代をマッチングすることで、かゆいところに手が届く事業ができる可能性がある。